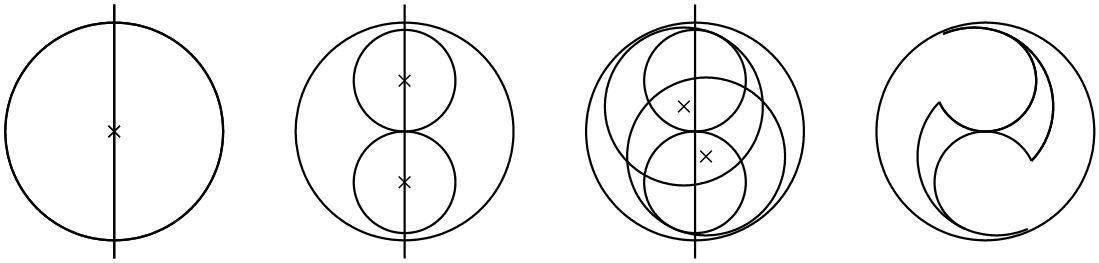
★ 家紋・・・文様は縄文時代から装飾や呪術的意味合いで用いられ、これが変化し家紋の形になるのは平安時代末期からと考えられている

紋章上絵師(うわえし)は定規と分廻し(ぶんまわ) (2 本の竹の棒に針と筆をつけたコンパスのようなもの) を使って様々な紋を描く:

二つ巴



微妙に小さくした小円の半径や中円の中心の置き場所は上絵師のさじ加減で決まるため、絵師の個性が出る

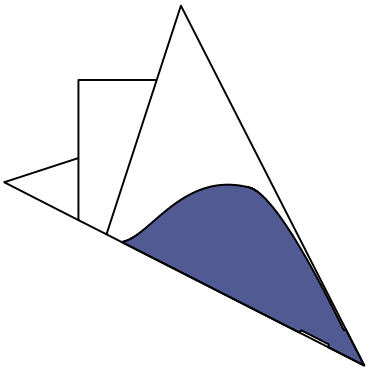
家紋ミニクイズ

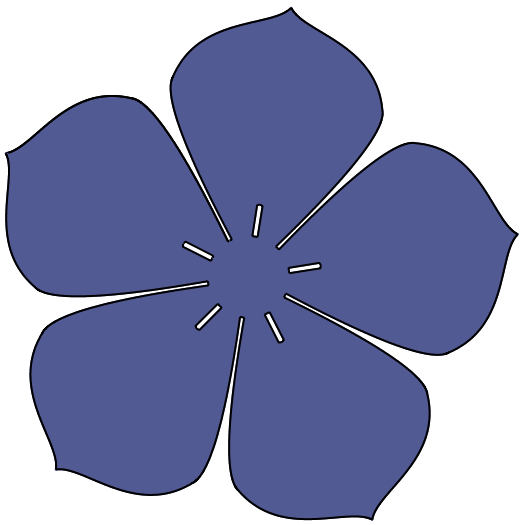
次のうち、家紋の図柄に使われなかったものはどれか？
(a) 亀　　(b) 鯛　　(c) ムカデ　　(d) 土星

—折り紙で家紋を作ってみる—

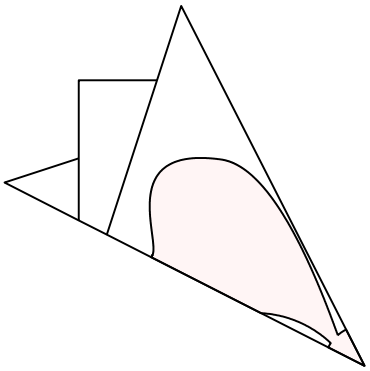
5 つ折り (折り方は 5 ページ) を使った作品集

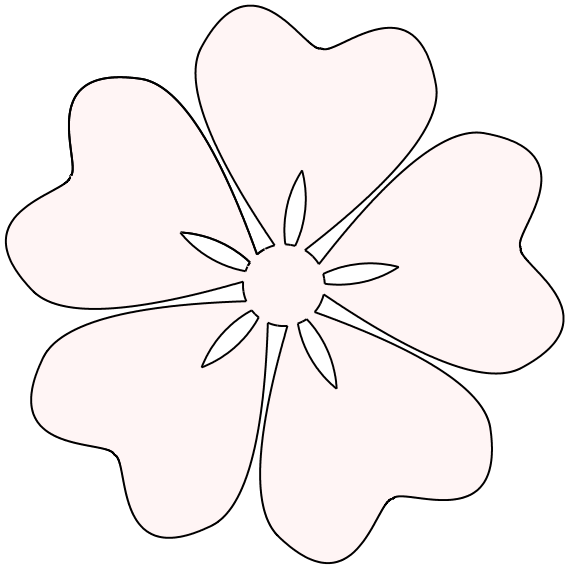
▷桔梗(ききょう)・・・秋の七草の一つである桔梗は「吉更(きちこう) (さらに吉)」として尊ばれた。



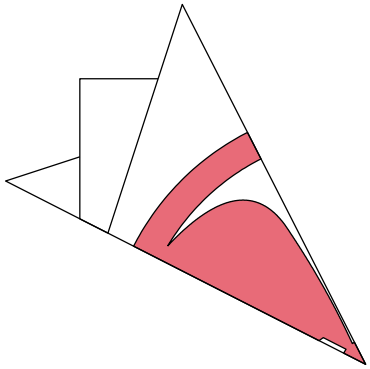


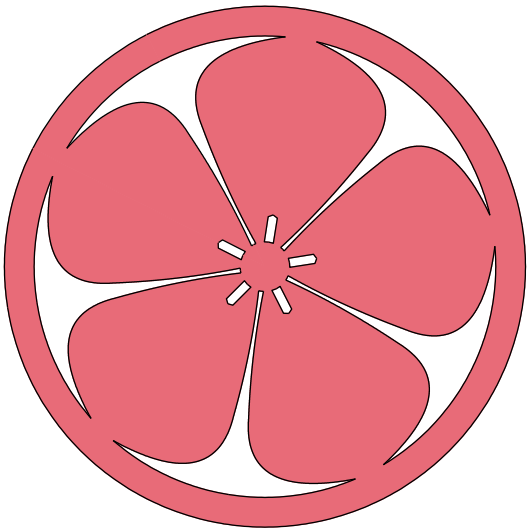
▷ 左近桜・・・桜は万葉集にも詠まれ、平安時代には装飾文様として用いられてきたが、家紋として登場するのは江戸時代からと遅い。江戸時代以前には “散る” イメージから家紋には使われなかったようだ



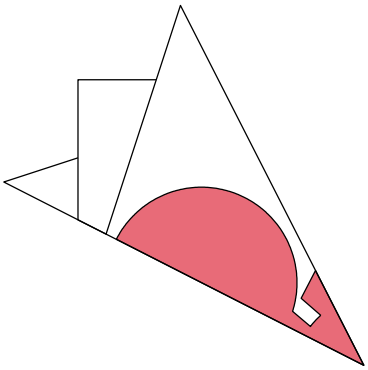


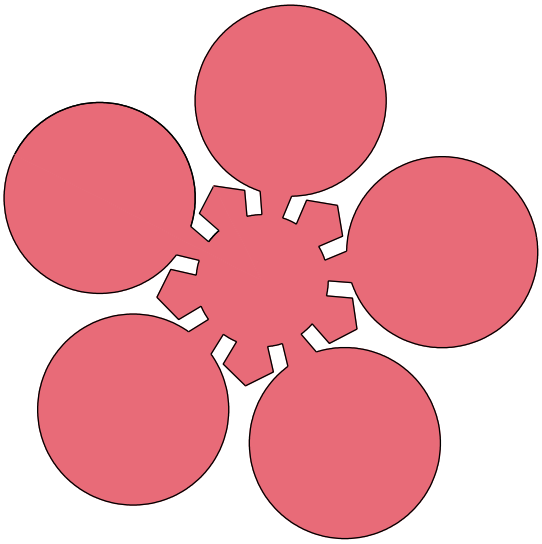
▷ 丸に梅の花・・・梅は奈良時代に中国から伝わり、平安貴族に鑑賞花として愛された。特に、学問の神といわれる菅原道真（すがわらのみちざね）が好んだことで知られ、祀られている天満宮の家紋は梅紋である。



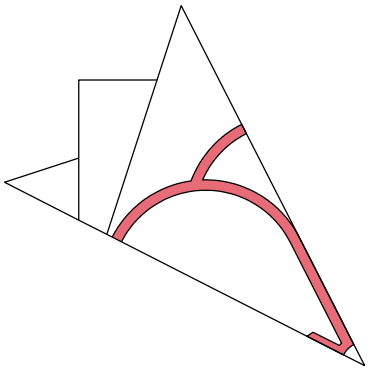


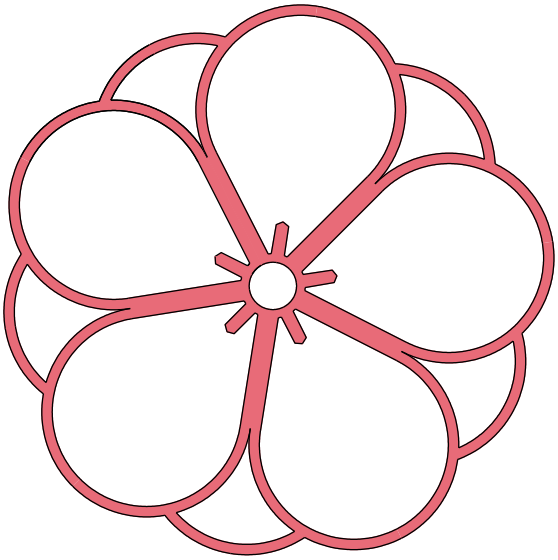
▷ 梅鉢・・・梅を 5 つの円形で表した幾何学模様のような紋を梅鉢紋という。



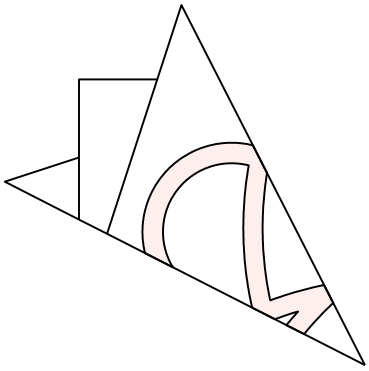


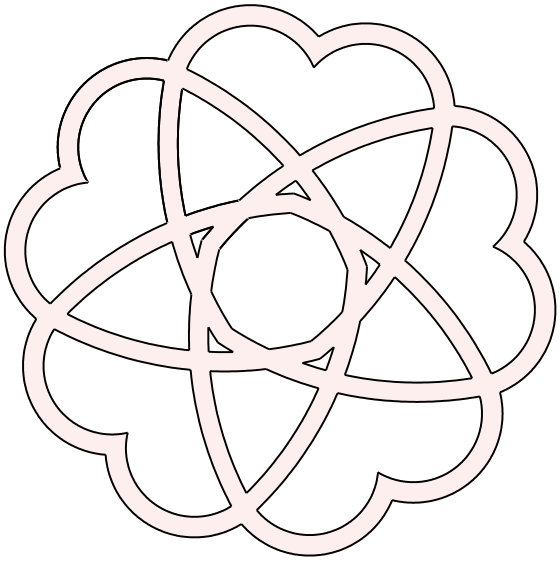
▷ 陰八重梅・・・金輪（かなわ）で表した紋を陰紋という。



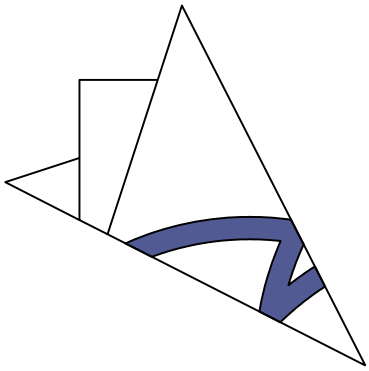


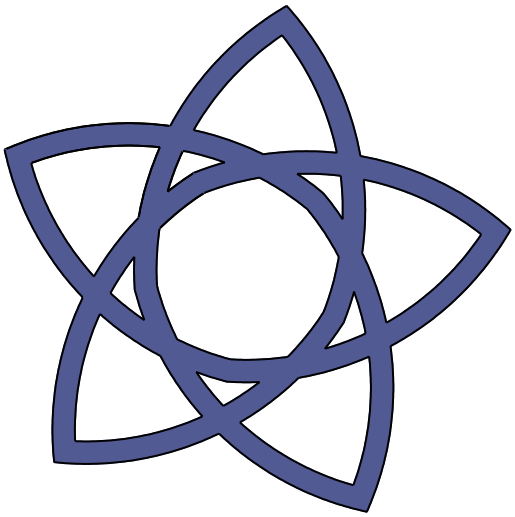
▷ 釜敷き桜・・・鍋敷きのように金輪を組み合わせた紋を釜敷き紋という。





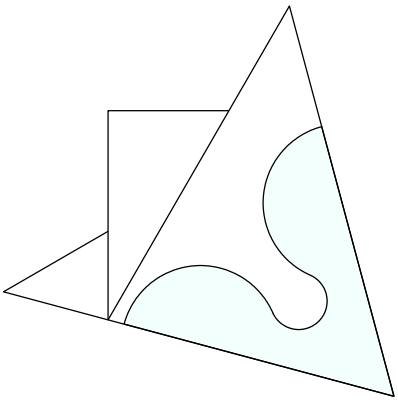
▷ 細釜敷き桔梗

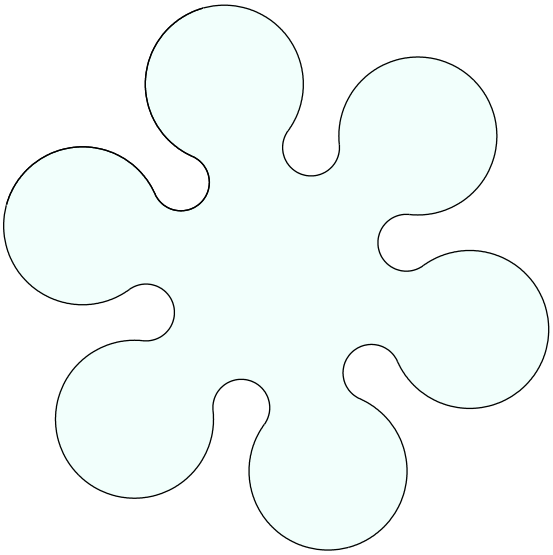




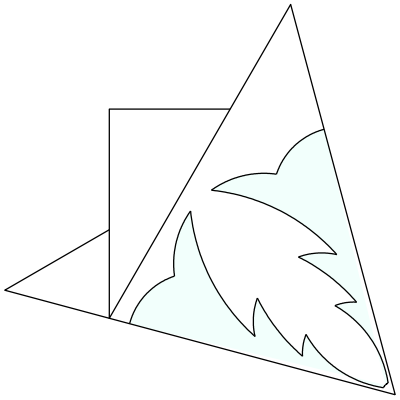
3 つ折り (折り方は 6 ページ) を使った作品集

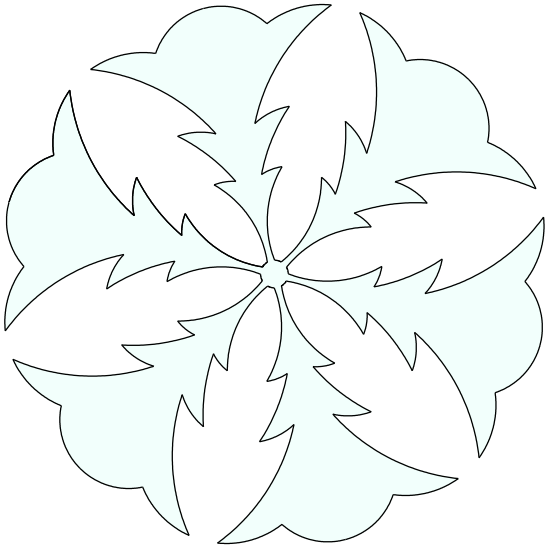
▷ 初雪・・・冬の初めに降る雪は湿気をたっぷり含んでいるイメージから、このようなぽってりとした形なのだろうか。



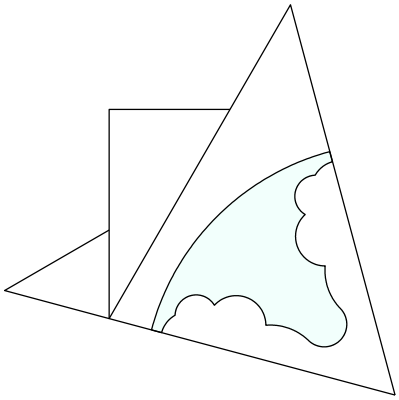


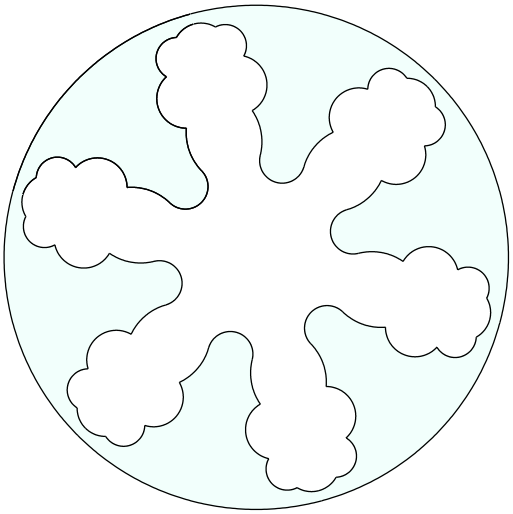
▷ こもり雪・・・曇り雪ともいう。雪は豊作の瑞兆とされる。





▷石持(こくも)ち雪



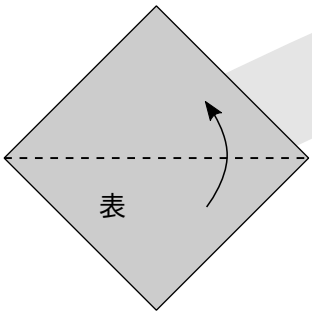


家紋ミニクイズの答えは (b) の鯛。意外にも、鯛や鯉などの魚類は家紋に一切用いられなかった。

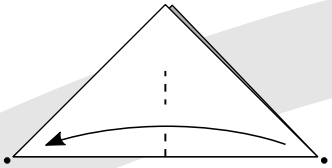
参考書籍等

- 家紋の切り紙―戦国の意匠をあそぶ / エキグチ クニオ (取り上げられている家紋が豊富)
- 切り紙もんきりあそび / 下中 菜穂 (切り取った紋を利用したデザインが素敵)
- 家紋の話 — 上絵師が語る紋章の美 — / 泡坂妻夫
- うた - 森羅万象【デザインあ× NHK1.5ch】https://youtu.be/SSIGiBblgd8
- もん - 巴 【デザインあ× NHK1.5ch】 https://youtu.be/QOreO8zBQ04
- もん - かりがね【デザインあ× NHK1.5ch】 https://youtu.be/AolOT64_x50

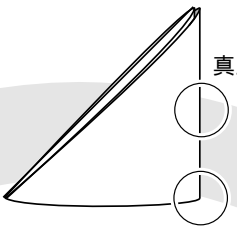
5つ折りの折り方



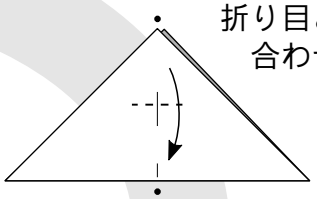
表側から半分に折る



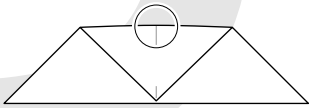
角と角を重ね合わせて



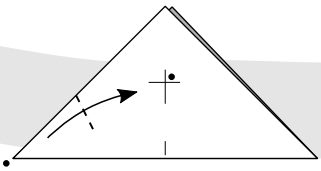
図の2箇所に
小さく折り目を
付けて開く



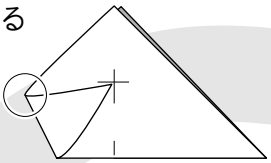
先ほど付けた
折り目と角を
合わせて



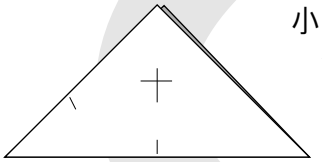
前に付けた折り目に
交差するように
小さく折り目を付けて開く



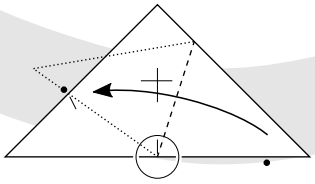
交差させた折り目と
角を重ねるように



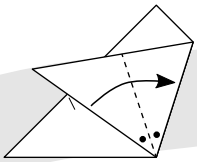
図の箇所に
小さく折り目を
付けて開く



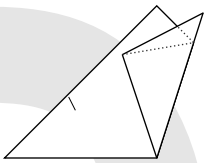
必要な折り目を
付け終わった



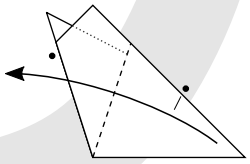
底辺を左上の折り目に
重ねるように折る



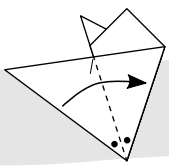
角を二等分するように
辺を合わせて折る

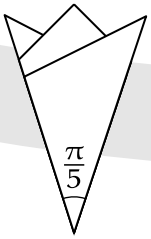


ひっくり返す

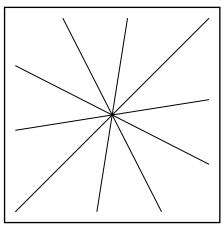


後ろの折り目に
沿うように折る



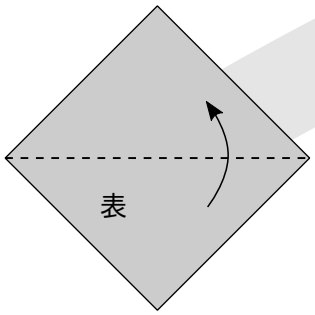


できあがり！

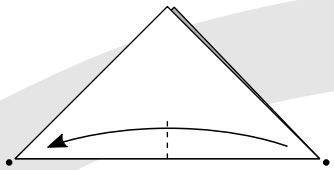


開くとこんな感じ
10等分されている

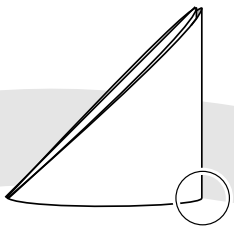
3つ折りの折り方



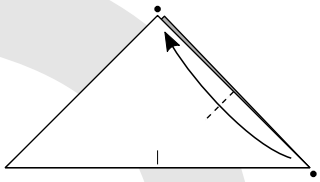
表側から半分に折る



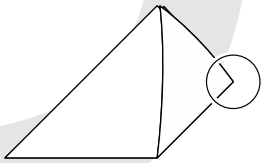
角と角を重ね合わせて



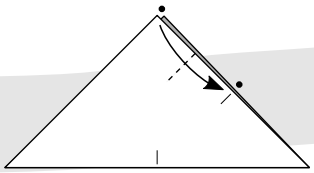
底辺のところに
小さく折り目を
付けて開く



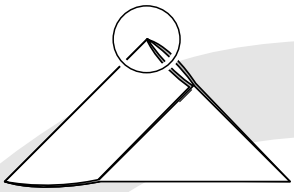
角と角を合わせるように



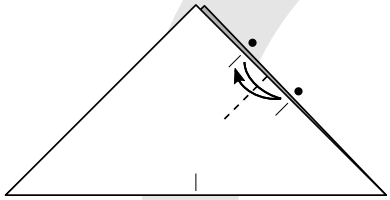
図の箇所に
小さく折り目を
付けて開く



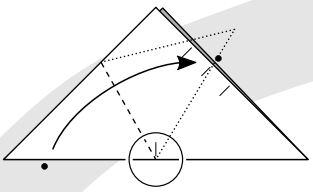
前の折り目と
頂点を合わせる



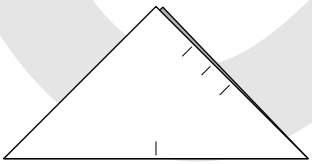
図の箇所に
小さく折り目を
付けて開く



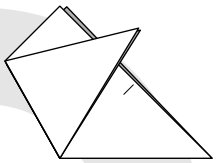
同様に、
折り目と折り目の中間に
小さく折り目を付けて開く



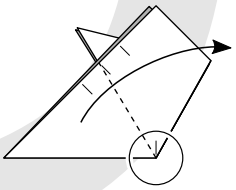
底辺を右上の折り目に
重ねるように折る



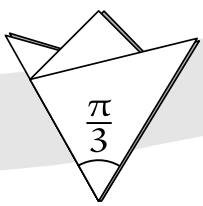
必要な折り目を
付け終わった



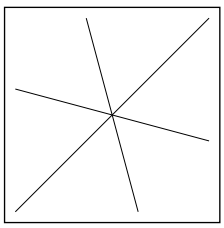
ひっくり返す



後ろの折り目に
沿うように折る



できあがり！



開くとこんな感じ
6等分されている